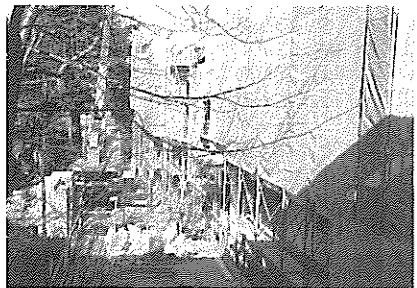


CBC NEWS



一変する駒込の山

「紫雲の漂える、駒込山に据えられし…」と、昨年四月七日に十一名の新入生を迎えて声高らかに歌った駒込の山が一変しつつある。

九八年度の新学期は震度二、三ではないかと思われる削掘作業の地響きの中で、チャペルとクラスが続けられた。毎朝のチャペルは宣百ホールで、水曜日の学生祈祷会は通称「サロン」(昔ピンポン室と呼ばれた客室前の雑然

CBC NETWORK

・食堂、舎監室を含む学生寮の起工式が九月二十八日に行われた。

・十一月十七から十九日にわたって教団総会が持たれた。学生たちは三日間にわたる奉仕と共に、第一日は平山正実師を迎えて、青少年の異心理について講義を受け、第二日目には夏期派遣の宣教報告を井桁兄、式見姉より受けた。

・十一月十二日に、早期入学試験が行われ、五名が受験した。二月九日の入学試験では七名が受験し、関西分校からの進級者を含めて、来年度の入学者は十三名となる。

・献身者準備会が十一月二十三日に行われ、六名が参加された。参加者は在校生と共にチャペルに出席し、また授業を受け、昼食時に良き交わりのひとときを持った。

・十二月二日、ウィクリフ・アジア地区総主事ディック・ヒュグノー師、福田崇師を迎えて世界宣教祈祷会が開かれた。十二月四日、川口神召キリス

ト教会のアフリカンブレイズチームと、メッセンジャーに船津信成師を迎えて、学生たちによるクリスマス特別伝道集会が開かれた。

・冬期派遣は十二月十三日より一月二十四日までの約六週間行われ、学生たちは全国各地の教会に派遣された。

・中央聖書学校の冬期研究科が佐布正義師、杉本智俊師を講師として一月十二日より二十三日まで開講された。

・第四八回卒業式が三月九日に中央聖書教会において行われ、卒業生十名にそれぞれ卒業証書が手渡された。

・三月十三日から二十二日の十日間、CBCの学生七名が教職二名と共に二グループに分かれて、東海教区のキャラバン伝道に赴く。

・CBCの第一期生であり、一九五一年から留学中の五年間を除いて、事務主任、教務主任、教師としてご奉仕下さった佐布トシ子師が今年度をもって退任される。

後援会のご案内

中央聖書学校が教団の伝道者養成期間として発足以来、すでに四十九年を数えておりますが、その間多くの方々のご協力と献げ物と奉仕によって幾多の伝道者、働き人がこの学舎から輩出されたことは感謝であります。

さらに学校の設備に充実とゆとりのある運営がなされるためには、多くの方々のご賛同を必要としております。どうぞこの点をご理解いただき、是非本会にご入会くださるよう心よりお願い申し上げます。

中央聖書学校後援会

会長 山田 亘

後援会入会要領

個人会員 一口年五千元
法人会員 一口年一万元

☆連絡は中央聖書学校内後援会宛にお願いいたします。

編集 後記

めまぐるしく過ぎていく一年。出会いがあり、別れがあるその中で、喜びがあり、悲しみがあり、楽しみがある。同じ時代に生まれ、同じ時期に、同じ神学校で、同じ釜の飯を食べたその交わりは決して忘れられないものとなるだろう。『あなた』という人に出会えてよかったと言える出会いを与えて下さる主に、ハレルヤ!と感謝しつつ、時が、過ぎていく…。外に目を向けると、多くの救われていない魂が私たちとの出会いを待っている。

(K・B)

編集スタッフ 新聞部部員

別宮 健一 田中 千香子 菅原 洋子

編集責任者 ダビデ・ハイムス

事務局 中央聖書学校

豊島区駒込三二五二〇

○三二九一八四九二五

FAXTEL ○三二九一八四〇六四

静心

東京にも、こんなに澄みきった青空があるんだと、ある日空を見て改めて思わされた。日差しも暖かくなり、地面からもあちらこちらで新しい春の芽が萌えてきた。

そんな卒業式が間近に迫る頃になるとずいぶんと忙しくなり、課題やレポート提出、試験などと次から次へと息つく暇なく追われてしまう。

しかしどんなに忙しい中にあっても、神様の恵みは昨日も今日も変わることなく注がれ続けている。残すところあとわずかしかなないこのでの生活で、特に四年生は目に見えて神様に整えられていつていることがわかる。救霊に対する情熱に燃やされ、神に対する献身がさらに深められ、講壇に立って語られるメッセージの一つ一つに今までにない重みと力強さを感じられる。本当に神様はすばらしい。私も残されたここでの生活をどんな状況にあっても天を仰ぎつつ歩ませて頂こう。(Y・S)

CBC NEWS
原吹き
vol.12

とした部屋)で行われている。これまで祈祷会は夕食後約一時間で済んでいたが、昨年来、膝をつき合わせて座って祈るとりなしの祈りが延々と続き、司会者が集会を終わらせるのに苦労するという状況だ。

一九九九年の卒業生が四

十九期生なので、当然、二〇〇〇年の卒業生が五十期生となる。ということは、中央聖書学校創立半世紀記念の年が、千年に一度しか来ないこの年と合致することになる。それだけに身が引き締まるような思いがする。と同時に、この歴史的節目には、弓山喜代馬名誉校長をはじめ

多くの方々が心血を注いで祈り、ご奉仕下さった尊い歴史があることを厳粛に受け止めざるを得ない。また、全国の諸教会や海外の姉妹教会からの経済的な支えがあればこそ、今日のCBCがあるということを感じる。

今年の入学式頃には緑色に映える屋根と、塔にそびえる十字架を擁した学生寮が完成する。続いてチャペルと図書館、音楽室等が建築される。新しいものが出来上がったいく感激と喜びは大きい。しかし、その興奮の中で、中央聖書学校に直接関わる我々、学生、教師、職員一人一人が、新鮮な主との出会いを体験し、「この場所は、なんとおそれおおいことだろう。こここそ神の家にほかならない。ここは天の門だ」(創二八章一七節)と叫んだヤコブのように、この駒込の山にめいめいの石の柱を立てる必要と責任を痛感するのである。

CBC LIFE CBC LIFE CBC LIFE CBC LIFE CBC LIFE CBC LIFE CBC LIFE CBC

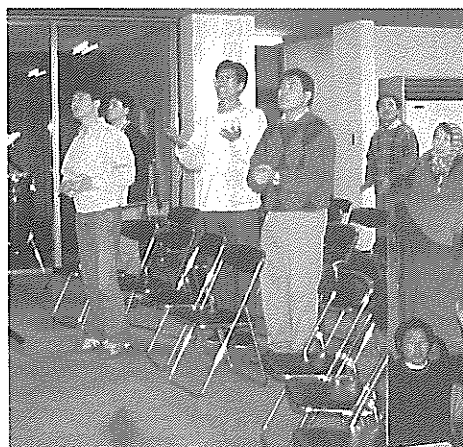
神学校の日ってどんなの!?

目で見えるCBC LIFE



⑥ AM:9:10~ 授業開始。教える先生も熱心のあまり、時間を越えることもしばしば。時に笑いあり、涙あり、居眠り?あり…。

⑦ 午後の授業が終わると、それぞれの部や班活動。祈禱班も実にたくさんあります。もちろん伝道にも…。



⑧ 水曜日。夜の祈禱会は何時まで続くかわからないほど祈りが、賛美が導かれてゆきます。この熱い祈りがあってこそ主の働きを担っていくことができます。



⑨ 金曜日の夜は学生伝道集会。この集会のために、路傍伝道に出て行き、新しい魂が救われるために伝道して誘ってきます。

CBC LIFE CBC LIFE

主の御名を賛美します。
神学校生活を振り返って見る時、神様の恵みを強く感じた時でありました。どんな時も



立石 ゆり
神召キリスト教会

多くのの方々のお祈りと献げものに支えられ、四年間の学びを終えることができたことを感謝いたします。
いよいよ伝道の場に出て行きますが、このすばらしい福音を、イエス・キリストをひとりでも多くの人に宣べ伝えていきたいと思っています。
また主に献げ、ゆだね、主とともにこの伝道者の道を喜びと感謝をもって歩みたいと思います。



伊藤 光枝
蒲江キリスト教会

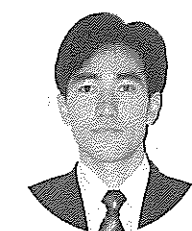


心を胸に



さげしてから、その赦された罪人! 始めるとやっぱり

「さあ、近くの別の村里へ行く。そこにも福音を知らせよう。わたしは、そのために出てきたのだから。」(マルコ一章三八) 右記の御言葉に導かれ、中央聖書学校の門をくぐって早3年がたつ。出会いがあり、別れがあり、悲しみ、喜びながら神の御手の中で生かされている。卒後の人生も主のもの。主に従って参ります。感謝にあふれて主に仕えよう、ハレルヤ!



高木 順一
福井開拓

「神のなさることはすべて時になつて美しい。」この言葉を信じてここまで来たが、卒業を前に思うこと、それは「本当にそのとおりだな。」、その一言につくる。
全ての出会い、全ての出来事、どれ一つも無駄ではなく、献身の志をより具体的なものと引き上げてくれた。
新しい出発もまた、この言葉を信じ、期待していきたい。

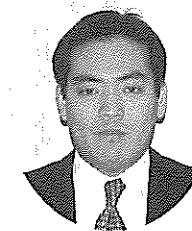


長谷川 忠幸
境港キリスト教会

期待と不安を胸に校門をくぐり、期待と不安を胸に校門をあとにします。この三年間、神様のあわれみによりいろいろと学ばせていただきました。今、言えることは入口から少し入ったことです。これから更に神様の素晴らしさ、神様の愛を知って、多くの人々に宣べ伝えて行きたいと思っています。この三年間、多くの方々にお祈りいただいたことを心より感謝します。



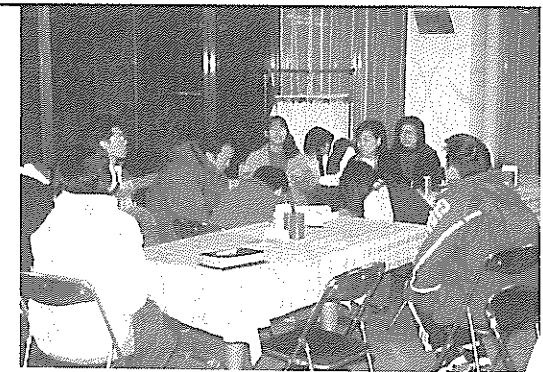
式見 幸枝
御影神愛キリスト教会



渡辺 岳見
福山キリスト伝道所

LIFE CBC LIFE CBC LIFE CBC LIFE CBC LIFE

- ② AM6:30 各部屋の点呼、報告をしてから元気にラジオ体操。どんなに寒い日も、暑い日も、眠い日も？みんな外に出て来て体を動かします。実は秘密のCBC体操というのがあります。



- ① AM6:00 朝の早天祈祷。まだ朝の暗いうちから各自がいろいろな所で祈り始めます。木曜日だけは、翌日の学生伝道集会のため合同で祈ります。



- ③ 掃除も訓練の大切な一つ。学校や寮のいろんな所を心を込めてきれいにします。



- ④ 掃除が終わったらみんなで朝食。学生が作るのによっていろいろな味があります。

(朝からモリモリ！、よく食べるね～。)

- ⑤ AM8:15 やっぱ朝のチャペルはすばらしい！心からの礼拝をまずおさ



の日の学びが始まります。いつもはただ？と感じるお互いが、いざ神様に向かい献身者であることを確信させられます。

CBC LIFE CBC LIFE CBC LIFE CBC LIFE CBC LIFE CBC LIFE CBC LIFE CBC

母教会をはじめ、多くの人のとりなしの祈りを通してここまで支えられた事は、私にとって神学校生活最大の宝物となっています。これからフィールドに出て行くにあたり、私も同じようにとりなしの祈りをし、人々に仕えて行く者になりたいと考えています。



生武 嗣幸
島根開拓

全国の諸先生方、兄弟姉妹方の祈りと尊い捧げものによって今日までささえられました事を心から感謝いたします。いよいよ卒業するにあたり、再び召命感を新たにし、襟を正す思いです。

私を召して下さり、導き続けて下さった主の御名を心から讃えます。

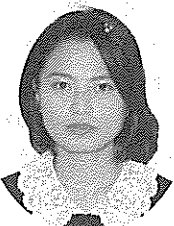
これから魂を救いに導き、牧していく務めをしていきますが、イエス・キリストを見上げつつ、福音宣教の為に私の全てを捧げて従っていきたいと思っています。

時が良くても悪くても主の御旨を行う者になりたいです。



沼田 千晴
千歳キリスト伝道所

すばらしい主の御名をほめたえします。この三年間貴重な訓練が与えられ、今に至るまで導いて下さった主に心から感謝します。これからの歩みも、主が必ず共にいて下さることを確信し、喜びと平安でいっぱい입니다。取るに足りない私を召して下さった真実な主に感謝し、その御名がいよいよ高く上げられることを願いつつ、更に主に従っていきたいと思います。ハレルヤ。



三宅 由香
あすみが丘福音
キリスト伝道所

お祈りに支えられ、卒業できる恵みを感じます。この神学校生活は、神様の素晴らしい贈り物でした。多く学び、祈り、時に限界を感じ、主に求める...その中で濃密な多くの取り扱いを受けました。神様は生きておられ、私を導いて下さることを体験しました。「御言葉を宣べ伝えなさい。」と召された主に従い、時代の宣教の一翼を担うことを強く願います。ご加禱下さい。



藤本 幸雄
三豊開拓

民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。(創二二章一―二節)この命の主のすべてを明け渡し、行く先はわかりませんが忠実に主を愛して、自分に与えられた使命を全うしたいと思えます。どうぞお祈り下さい。

シリーズ献身 Vol.12

一九四五年八月一日、日本はポツダム宣言を受諾して敗戦を迎えました。日本帝國最後の軍國少年であつた私は、生まれ故郷の東京に帰りましたが、そこは一面焦土と化していました。命を的に戦つた正義の戦いが侵略戦争であつたと知つた時の失望と怒りは、私を人間不信に追いやりました。

戦後の混乱が続く中、ある時街頭にて、アメリカで印刷された日本語の聖書を買つて読み始めました。内容がよく理解できたわけではありません。しかし、神は頑迷なヨナに、いろいろなものを備えられた様に私にも、小さな教会や宣教師を備えて下さり、不信に固まつた私をキリストの愛と血潮で完全に罪から救つて下さいました。

「古いものは過ぎ去り、すべ

てが新しくなった」のです。罪から解放された心の喜びは筆舌では表せませんでした。この喜びを誰かに伝えたい、否、伝えなければならぬ。そんな思いの時、神が私を祈りの中でお召し下さしました。

神の召命を頂いた頃、駒込に神学校が建てられつつありました。翌年四月入学が許されたのです。

一組の寝具と、少々の荷物だけ持って入学した私を含め、当時の学生は皆貧しく、ネクタイなど有るものを共有しながら助け合って学びを続けたものです。

卒業後も戦いは厳しいものがありました。神は一度も恥をかかせられた事はなく、むしろ豊かな祝福をもつてこの小さき者を用いて下さり、感謝しています。

献身以来半世紀、為すべき事を為したのみですが、主の哀れみと祝福は今もなお豊かで、喜びと感謝のうちに主にお任せしています。

私の献身

石原 嘉宣

中央聖書學校教授
中央聖書教會牧師

十字架の福音によつて

中央聖書學校
二年 酒井 知愛

私は昨年の冬、十二月十二日から翌年の一月二十四日まで、四国の新居浜福音キリスト教会に派遣され、ご奉仕をさせて頂きました。

今回の派遣はメッセージの機会も多く与えられ、感謝でした。特に十二月中は毎日のようにメッセージをし、主に伝道説教をすることになりました。「今やキリストともされたこのイエスをあなただがたは十字架につけたのです。人々はこれを聞いて心を刺され……」と使徒行伝二章三六、三七節にあります。私はこの御言葉のとおり、人々が心を刺され神に立ち帰る姿を、この冬新居浜で見る事ができました。

私は素直に十字架の福音をあの使徒たちのように伝えるよう神に示され、語りました。すると全てのメッセージの後で救いの決心をする人が起こされました。子供の集会では二十名、大人のクリ

とす。

私は本来にこの二つを心に覚え、実践しました。すると多くの人が救われるだけでなく、救いの決心をした人々の生活が変わっていったのです。

約三十年間キリストを拒んできたある兄弟は、いつも福音を聞いても途中で話を変えたりしていました。しかしその兄弟の家で小さなクリスマスを持ち、私が福音を語った時、神様が豊かに働いて下さり、その兄弟はキリストを信じ受け入れ、その後一ヶ月して受洗しました。その兄弟はイエス様を信じてすぐ、感謝するようになり、神様を賛美するようになったのです。いつもは病いのことで神様に不平を言っていたのに変えられたのです。

本当に聖霊の力と十字架の福音こそ力があり、人を変え、リバイバルの原動力となると実感しました。すべてを主に感謝します。

☆☆☆ 教職インタビュー Vol. 4
山城 晴夫 師

今回は神召教会牧師であり、中央聖書学校教務主任であり、また分校でも教鞭を取っておられる山城晴夫先生にお話しを伺いました。先生はお忙しい中にありながらもそれを周りに感じさせず、いつも笑顔で学生たちに接して下さっている、すばらしい先生です。

新聞部 : 最近の学生についてどんなことを感じられますか。

山城先生：昔と比べると、環境という点で雲泥の差がありますね。今は勉強のための本も数多くあり、授業も高度になってきています。2つの神学教育機関の認定を受けていますので、その水準を保つための努力も必要であることも関連していると思いますが、学問的にも優れたものを提供していると思います。

実際的な面においても、外に出て行って魂に触れキリストに導く、また各教会での奉仕をしていくということで霊的な学びがなされています。いろいろな面でバランスがとれ、素晴らしい環境の中にあると思います。

新聞部 : 先生は神学校と分校、さらに神召教会の牧会もされていて、とても忙しいと思いますが、どんなことに気をつけておられますか。

山城先生：一番気をつけていることは自分の健康管理です。神様のためといっても、むちやをして体を壊してしまうなら、本当の献身ではなくなってしまいます。体があつての働きですから、奉仕に支障をきたさないようにと主に願っています。特にストレス解消法があるというわけではありませんが、その場その場の奉仕で気持ちを切り替えていくようにしています。学校にいる時は学校のこと、教会にいる時は教会のことというように、その場の奉仕に専念するよう心掛けています。

新聞部：先生は学生時代、大変体が弱かったと聞いておりますが……。

山城先生：はい。学生時代は体が弱く、寮で寝ていたことも多くありました。よく卒業できたと思います。卒業してからも開拓でしたから、何でも自分でしなければならず、特伝などの準備でいろいろとがんばると当日熱を出してしまい、熱を押してメッセージをするということもしばしばありました。その後北海道へ任命された時は、周りの人たちに「北海道に行ったら、死んでしまうんじゃないか。」と言われましたが、主が召して下さるならばと行きました。零下30度という環境の中でしたが、神様は私の肉体を強めて下さいました。神様に従ったことによって、主は私を健康にして下さったと思います。最近では、病気で寝たということはありません。

新聞部：最後に、卒業生に向けて何かメッセージをお願いします。

山城先生：いよいよ、それぞれの任地先が定められ、派遣されます。その中で、他の同期生のことを考えて、羨んだりすることがあると思います。しかし、遣わされるその所が神の最善の場所であり、他では経験することのできない恵みを受けることができると、確信して主に従って行ってほしいと思います。

「従うことはいけにえにまざる」とありますから、従う時にすべての必要は備えられます。神様は必要な時に必要な物を必要なだけ与えて下さると信じて、霊的にも精神的にも肉体的にも整えられ、今ここに、自分は必要とされていると、確信して歩んで行って下さい。心から祝福をお祈りしています。